

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)大分銀行様水道町2丁目ビル	階数	地上12F		
建設地	熊本県熊本市中央区水道町2番2	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	事務所、物販店、ホテル、等	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年3月23日		
敷地面積	1,037 m ²	作成者	上村 絢茄		
建築面積	563 m ²	確認日	2018年3月31日		
延床面積	4,720 m ²	確認者	吉永 拓郎		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	
<	

2 熊本県重点評価結果

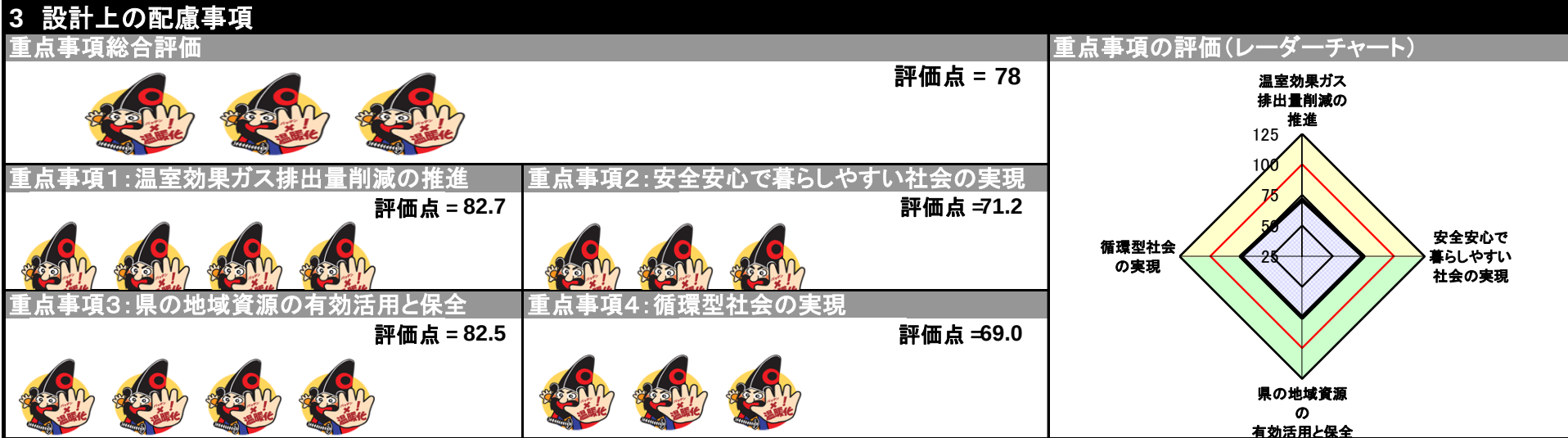
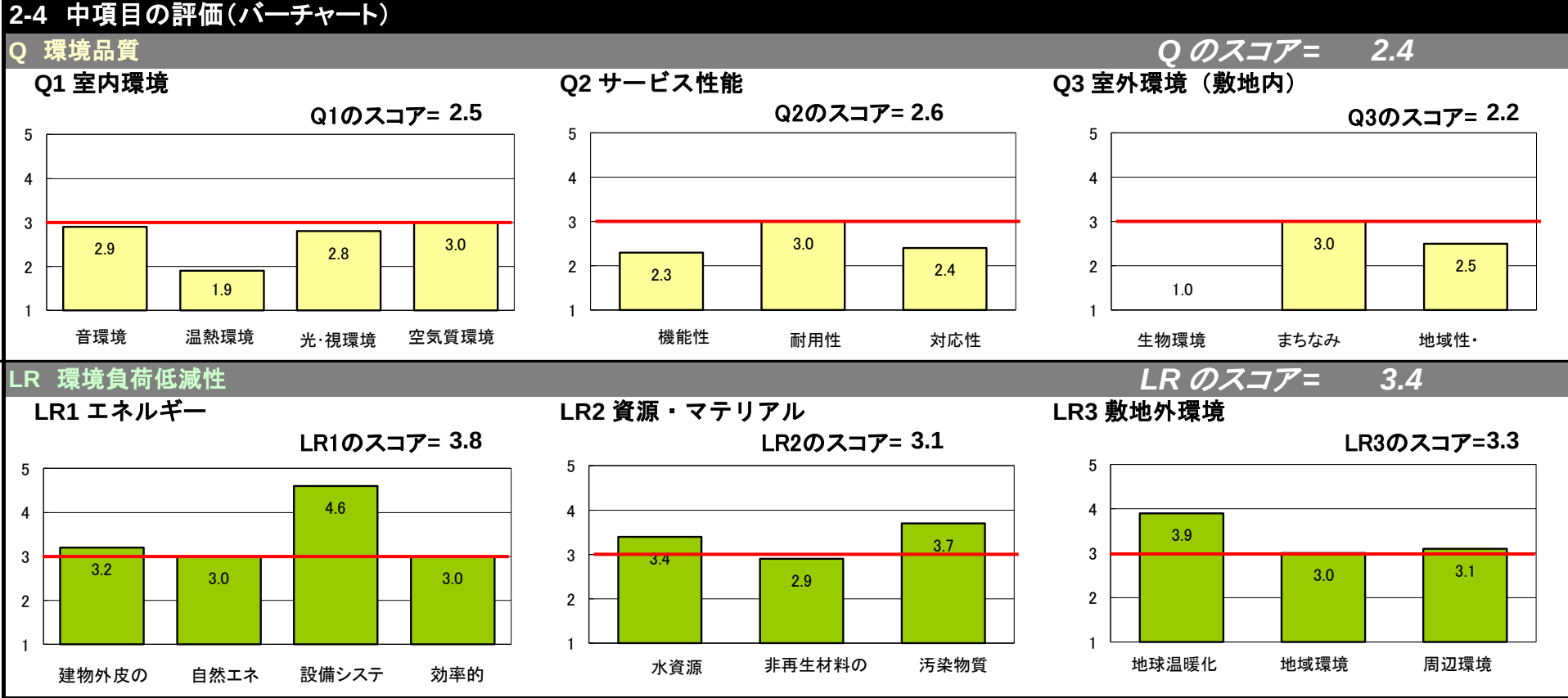
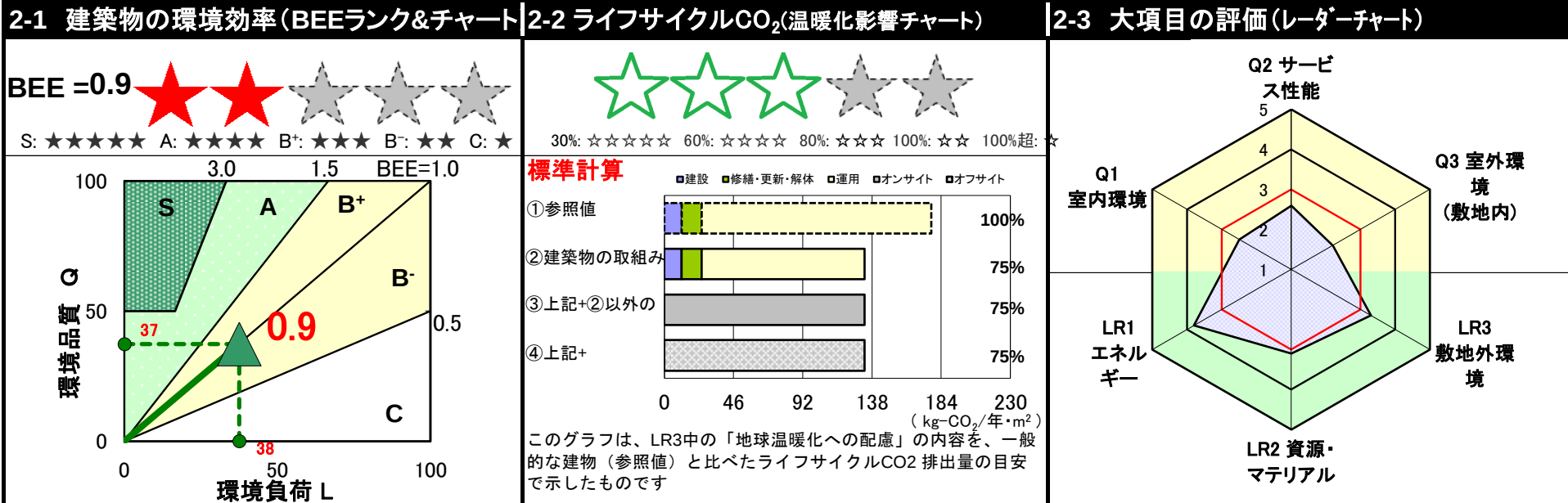
重点事項総合評価		評価点												
		78												
■熊本県重点評価基準														
	評価点	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	82.7													
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	71.2													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5													
【重点事項4】 循環型社会の実現	69.0													
※評価点は、100点以上が推奨です。														

CASBEE®-建築(新築)

■ 評価結果 ■

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)大分銀行様水道町2丁目ビル	階数	地上12F
建設地	熊本県熊本市中央区水道町2番2	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	191 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、ホテル、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年3月23日
敷地面積	1,037 m ²	作成者	上村 絢茄
建築面積	563 m ²	確認日	2018年3月31日
延床面積	4,720 m ²	確認者	吉永 拓郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)大分銀行様水道町2丁目ビル 新築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.4	
Q1 室内環境					0.40		-	2.5	
1 音環境				2.9	0.15	2.8	1.00	2.9	
1.1 室内騒音レベル		【ホテル共用】ホテルロビー50dB(A) 【ホテル宿泊】客室40dB(A) 【店舗】一般商店50dB(A) 【事務所】一般事務室50dB(A)		3.0	0.40	4.0	0.40		
1.2 遮音				2.9	0.40	1.6	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.96	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				1.0	0.04	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	1.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境				1.7	0.35	2.2	1.00	1.9	
2.1 室温制御				2.5	0.50	3.4	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		【ホテル共用】【店舗】【事務所】窓 SC:0.96、U:5.88 壁U:1.479 【ホテル宿泊】窓 SC:0.34、U:2.13 壁U:1.479		1.0	0.25	4.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.37	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				2.2	0.25	3.3	1.00	2.8	
3.1 昼光利用				2.4	0.31	4.2	0.30		
1 昼光率		【ホテル共用】0.80% 【事務所】4.47% 【ホテル宿泊】1.32%		2.0	0.58	5.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.42	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				1.0	0.29	3.0	0.30		
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.14	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.26	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.0	0.25	3.0	1.00	3.0	
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.48	3.0	0.33		
2 自然換気性能		【事務所】0.067>(1/15) 【ホテル宿泊】0.055>(1/20)		5.0	0.04	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.48	3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.07	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.93	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.6	
1 機能性				2.8	0.40	2.0	1.00	2.3	
1.1 機能性・使いやすさ				3.9	0.40	2.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	0.04	1.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.04	3.0	0.50		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満たす		4.0	0.93	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.1	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	0.05	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.05	-	-		
3 内装計画				1.0	0.90	1.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種B以上を使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.0	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり			3.6	0.04	1.0	0.50	
1	階高のゆとり	【店舗】【事務所】【工場】3.8m 【ホテル宿泊】3.1~3.8m(平均3.27m)	4.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.04	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.91	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m :0.95	3.2	0.19	-	-	3.2
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.71	4.6	0.50	-	-	4.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ、節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	・躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS下地) ・再利用(OAフロア)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	断熱材(ノンフロン)	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:75%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	・駐輪スペース20台・搬入車駐車スペース・複数の車両出入口	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドライン一部満たす・広告物照明の取扱いの過半を満足	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

道路面からの圧迫感に配慮し、高層部を道路よりセットバックした計画とした。

Q1 室内環境

内装にはF☆☆☆☆建材を使用し、空気質環境に配慮した。

Q2 サービス性能

耐力壁の無い自由度の高い空間とすることで、建物の更新性を高めた。

Q3 室外環境（敷地内）

一部に複層ガラスを採用し、遮熱性を高めた。

LR1 エネルギー

一部に複層ガラスを採用し、遮熱性を高めた。

LR2 資源・マテリアル

躯体と仕上げ材を容易に分別可能な設計とし、リサイクルの促進を図った。

LR3 敷地外環境

適切な駐車スペースを計画し、車両による道路交通負荷軽減に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)大分銀行様水道町2丁目ビル 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.7	0.40	33.08
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.2	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69	0.20	13.80
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数